

実施報告書【地域連携実践重点校用】

学校番号	36
学校名	富山県立南砺平高等学校

重点課題		B 地域学校協働活動を軸とした教育活動の実践
課題設定の趣旨		本校では、従来より五箇山地域の自然や文化を肌で感じる体験活動やフィールドワークなどの校外学習を通して五箇山の魅力を知り、特に総合的な探究の時間における「五箇山探究」で、1年次から3年次までのそれぞれにおいて調査や研究を行っている。令和4年度から導入のコミュニティスクールとしての地域との連携を活かして、本校独自の魅力的な教育活動の充実を図る。
中長期ビジョンを実現するための今後の重点事項		五箇山地域の魅力発信を目的に、地域と連携した様々な体験活動を通して生徒それぞれが五箇山地域への理解を深め、より実践的な地域課題(プロジェクト)を設定し、その解決に向けた探究的な活動を地域と協働し、学校全体で取り組んでいく。
実施内容 (具体的に記入する)		1年生 前半は五箇山地域についての学習や体験活動を行った。合掌造り集落の見学や屋根材となる茅刈りを体験し、歴史、文化、産業への理解を深めた。また後半は五箇山民謡について集中的に学んだ。実際に「麦屋節」と「こきりこ」について、各生徒が唄、踊り、楽器を担当し、郷土芸能に親しんだ。それぞれの活動において、地域住民を指導者として招くなど、学校・地域連携の授業を実践した。 2年生 五箇山地域の魅力発信に向け、5つの班に分かれてプロジェクトを進め、合掌造り集落における観光の発展や課題の解決を目指している。現地での聞き取り調査や地域住民からのアドバイスを受けながら、イベントの企画、お菓子の開発、マナーや人口減少への対策、合掌造りの模型作りなどに取り組んだ。 3年生 昨年度の映画制作のテーマであった「卒業後も帰ってきたい、大切にしたいと思える五箇山地域にするために」を共通テーマに、地域課題の解決に取り組んだ。社会問題への当事者意識と協働による問題解決力を育むことがねらい。地域づくり協議会や地元企業の協力を得ながら、地域交流の活性化や空き家問題、特産物のPRIに取り組むなど地域協働の取り組みであった。
取組の成果 (プロジェクト学習推進の観点から)		・地域との連携・協働という観点では、地域と学校がWin-Winの関係のもと、多くの地域人材に上記探究プロジェクトに参画してもらっており、大きな教育効果がある。学校だけでは広がりにくい領域・内容の課題設定が可能になることや、専門的指導を受けることができる点では学校に大きなメリットがあるとともに、高校生の若きパワーを求める地域事業の応援という点では、地域にとってもメリットが大きい。 ・地域住民との協働をする上では、異世代の方々とのふれあい、意見交換の機会が多くある。世代を超えた多様な価値観を共有できる点も生徒の成長につながっており、大きな成果といえる。今後は地域を出発点にしつつも、世界や未来を見据えた大きな視野で探究活動が進められればなお大きな成果につながるものと思われる。
対象者(学年・人数など)		全校生徒(1学年:16人、2学年:24人、3学年:24人)
実施実績	4月	地域の自然・文化活動体験(1年)、課題設定ワークショップ(2年)、地域課題解決プロジェクト(3年)
	5月	地域の自然・文化活動体験(1年)、課題設定ワークショップ(2年)、地域課題解決プロジェクト(3年)
	6月	地域の自然・文化活動体験(1年)、課題設定ワークショップ(2年)、地域課題解決プロジェクト(3年)
	7月	地域の自然・文化活動体験(1年)、課題設定ワークショップ(2年)、地域課題解決プロジェクト(3年)
	8月	
	9月	地域の自然・文化活動体験(1年)、課題設定ワークショップ(2年)、地域課題解決プロジェクト(3年)
	10月	<中間発表>(1・2年)、<成果発表>(3年)
	11月	郷土芸能体験(1年)、地域の魅力発信プロジェクト(2年)
	12月	郷土芸能体験(1年)、地域の魅力発信プロジェクト(2年)
	1月	郷土芸能体験(1年)、地域の魅力発信プロジェクト(2年)
	2月	<成果発表>(1・2年)
	3月	